

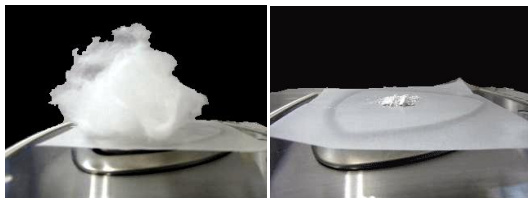
こんにちは！
めぐりん菜通信をお読みいただきありがとうございます。

今月号は、「重さと嵩」「さつまいも」「雑感」の記事をお届けします。

稲の刈取りは終わりましたが、冬野菜はぐんぐん成長しています。寒さとともに一気に甘くなります。体調管理にはご注意ください。
(担当：斉藤)

重さと嵩(カサ)

いきなり小学校の理科の時間を思い出すような表題で始まりましたが、生ゴミ処理機についてのお客様との打合せでは大変重要なことです。



右の写真はいずれも1gの重さです。同じ重さでも嵩比重の違いで容積が大きく変わります。

お客様からご質問をいただきました。
「生ゴミ処理機の分解で重さが1割弱になってコストダウンが出来るのはわかるが、ところで一度にどれだけ生ゴミ処理機に入るの？」



お客様の工場で発生する食品残渣は重さもあるし嵩(カサ)もある状態(白菜の外葉)で発生します。

一口に食品残渣といっても内容は千差万別です。内容物を確認し、重さとともに嵩にも合った機種のご提案が必要になります。

お客様の場合
一回で野菜コンテナ8杯、約40kg、1日計で約450kgの投入になります。(500kg/日処理機)

容量計算でシャフト上まで糶殻を満たした状態で一度にコンテナ15杯の投入が可能を確認しました。



なお、内容物にもよりますが、生ゴミ処理機に投入後、約30分で約半分の容量まで攪拌・分解されます。

さつまいも

実りの秋を向かえ、提携農家様では芋類の収穫もほぼ終了です。



さつまいもは貯蔵(甘みが増す)を経て、順次販売されます。

ところで、碧南市に焼いも専門店があるのをご存知ですか。(結構有名)



普通の店舗で購入する場合は「焼いもを下さい！」ですが、ここでは品種指定です。「紅あずま下さい!」、このマニアックさが焼芋通(ツウ)のプライドをくすぐります。いつもの大繁盛です。

雑感



お客様を訪問した際、「生野菜処理機」の表示を見つけました。また「食品残渣(カス)」ではなく、「未利用食品」だと指摘される専門家もいます。日頃、何気なく使っている「生ゴミ」、この言葉を使い続けているのは、しっかりしたリサイクルは進まないとも思います。

既に言葉が一般化しているのでは正は難しいと思いますが、お客様に合わせて注意して使う必要がある言葉だと思います。